

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4371100449		
法人名	(有)ハートフルハウス		
事業所名	グループホーム とどろき		
所在地	熊本県宇土市栗崎町736番地		
自己評価作成日	令和2年2月10日	評価結果市町村受理日	令和2年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5
訪問調査日	令和2年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を自然に囲まれており、自然と触れ合いながら、春夏秋冬を肌で感じることができます。また四季の移り変わりを楽しみながら、穏やかに、笑顔で生活されています。重度の認知症の利用者の方も、できるだけ普段通りの生活ができるよう体操やレクリエーション、行事等にも積極的に参加していただきながら、職員と一緒に時間を楽しんでいます。ターミナルケアも行っており、「最期までとどろきで生活したい」という希望のある利用者の要望には応えられるよう、支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな地域に位置し、木の温もりの感じられるリビングで、のんびり、穏やかに、安心して過ごせる暮らしが支援されている。グループ内の畑で収穫された野菜を豊富に使った家庭的な食事は、入居者の元気の源となっている。リビングでは、大きな声でカラオケを楽しんだり、塗り絵をしたり、また、保育園児と交流することも楽しみの一つになっている。かかりつけ医の継続受診や、協力医の訪問診療もあり、健康管理・医療面でも不安なく過ごせるように支援している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム「とどろき」の理念を掲示しており、仕事においてケアの方法に迷ったとき等は理念に基づいた仕事を行っているか考えるよう指導している。	「温かい心と笑顔で会える場所」という法人内の全施設が共有する思いを礎に、ホーム開設時に策定された理念を職員の行動規範としている。毎年、1回、理念・倫理・法令遵守に関する研修を実施している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の実施、同グループの保育園（運動会、どんどや等）との交流を通じて地域とのつながりを保っている。	ホームは小高い山の中腹に位置し、近隣は農業を営む高齢者が多い。介護が必要になった時、とりあえずの地域の相談先としての役目を果たしている。法人内の居宅・デイ・訪問介護や地域包括支援センターと連携して住民を支援している。また、「どんどや」開催時は、家族や住民に声掛けし、入所者との交流の機会としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や運営推進会議実施時に認知症についての理解を促している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で、「とどろき」での生活をDVD視聴することにより、活動内容等を報告し、参加者からの質疑に答えている。	運営推進会議では、利用者毎の状況説明・インフルエンザや感染症等についての説明、入所者の様子を撮ったDVD観賞等、ホームからの情報提供が主な内容となっている。	運営推進会議で「フリートーク」が行われているが、ある程度テーマを決めて話し合うことで、より有効な会議になると思われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	令和元年12月には市からの実地指導があり、また運営推進会議にも市より参加していただき、貴重な意見をいただいている。	運営推進会議に参加している市の担当者から、要介護認定調査状況等についての情報や、実地指導後、改善点等についての意見を得るなど協力関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の職員研修時には身体拘束についての議題を掲げることにより、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	毎月の職員会議で、「身体拘束指針」「身体拘束事例」等に関して学び、また、年間研修計画に「身体拘束排除対策について」研修を実施するなどして職員の意識を高め身体拘束の無いケアに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修である職員研修において、高齢者虐待とは身体的なものだけではなく、心理的・金銭・介護放棄も虐待の一種であることを指導した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入所者もおられ、職員と一緒に権利擁護について知識を取り入れた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には必ず契約書、重要事項の説明を行い、家族の納得の後、同意をいただいている。特に利用料金については不安を抱えている家族も多いため、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、年1度の家族会開催時、また玄関に意見箱を設置し、意見や要望を反映している。	毎年1回、ホーム主催の家族会を開催し、職員紹介、家族と一緒に入居者の暮らしぶりの写真を見たり、カラオケを楽しんだり、美味しい昼食食べる等、楽しいイベントが行われている。また、毎月発送する家族便りには、管理者と担当職員が入居者の様子を記載して、家族に伝え、信頼関係作りに努めている。意見箱を設置しているが、家族等からの要望は少ないように窺えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の代表者会議の内容を職員全員に通知し、内容把握を行っている。疑問点等は質問し、その都度解決するよう心掛けている。	ケア場面での改善のための職員提案は、その都度管理者に伝えられ、できるだけ前向きに取り入れながら改善に繋げることとしている。変更内容は、職員間の連絡帳や介護記録に残して共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休消化、ノー残業、職員の配置を考慮しながら、職員が働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修を通じて、職員一人一人が能力の向上を目指して参加している。また外部研修の案内を行い参加を募っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、情報交換や勉強会を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面接、アセスメントを実施。職員には事前にカンファレンスを行って、情報の共有を行っている。入所後は環境の変化により、事前情報を異なることもあるため、再度アセスメントを行いながらケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接、契約時に家族との面接により、家族の困りごと、悩みごと、今後のことに耳を傾けながら支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは環境の変化に伴うことによる生活に慣れていただくようサービスの提供に努める。その後は課題として優先順位を見つながらサービスの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることはしていただき、過剰なサービスを行わないようにしている。グループホームとしてはできる限り家庭環境に沿った生活を支援するという立場をとるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、家族に家族便りを送付し、担当職員が利用者の情報を細かく伝えている。受診情報、当月の予定も掲載している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会時には飲み物を出し、ゆっくりとした雰囲気の中で面会できるよう配慮している。職員からの近況報告を行っている。	「昔馴染みの洋服屋に行ってみたい」「実家やその周辺に行ってみたい」等の要望があった時は、要望に応えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は自室にこもらないようホールで過ごしていただいている。また散歩やドライブ、そして誕生会等催し物等実施時には皆で参加していただけるよう促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡され退所後には、通夜、葬儀に参列し、家族からお礼の言葉をいただき、喜ばれている。退所の手続きにも丁寧な返答を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人と会話しながら、本人の希望、要望の把握に努め、応えることができるようにしている。利用者からの要望が聞き取ることが困難な際には、家族からのアドバイスを参考にしている。	自分の思いを表現することが難しい方は、個人の生活歴や家族からの情報を参考にして支援が行われている。	理念「一人ひとりの人生や個性を大切に」を実現するために、「思いや意向の把握について」、更なる努力を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報提供書、本人・家族との面接により、これまでの生活環境、生活歴を聞き取り、サービスの提供を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を参考に最近の本人の状態や言動を把握しながら、ケアの実践に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の職員会議により、モニタリングを行っている。また3ヶ月の一度の評価を行って、ケアプランを作成している。	入居者と家族の意向を参考にしてケアプランを作成している。毎月の職員会議でモニタリングを行い、3か月ごとにケースカンファレンスを実施して評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	仕事に入る前には必ず、介護記録を確認するようにしている。ケアプランの目標も共有できるよう、チェックできるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩をしたい、買い物に行きたい、塗り絵をしたい等、同じ時間にできないこともあり時間を区切って要望をかなえることができるよう工夫している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お年寄りには特に子どもを好まれ、近隣中学生の職場体験学習、同グループの保育園との交流を喜ばれる。一緒に作業、参加することにより、たくさんの笑顔を見ることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望を取り入れている。かかりつけ医は入所前からの医療機関を利用される場合もあるため、その際には協力医療機関ではなく以前からのかかりつけ医に診てもらっている。	利用者と家族の希望に沿ってかかりつけ医の継続受診を支援している。受診同行は、基本家族に依頼しているが、必要に応じて皮膚科等の専門医等に職員が同行し、健康管理に努めている。協力医による訪問診療も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護師、また訪問診療の看護師と連携を取りながら、アドバイスを受け、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族、病院関係者と話し合いながら、早期に退院できるよう支援を行っている。入院直後にはケアの注意点を報告するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調変化時、悪化時には家族との話し合いを行い、最期までグループホームでお世話をさせていただいて良いのかカンファレンスを実施する。その際にはできること、できないことを明確に伝え、了承していただく。	利用者と家族の希望に沿ってターミナルケアを行うとしている。	重度化や終末期に向けた支援の方針を明確に文書化し、職員研修等を実施して体制作りを行うことが必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調変化時だけでなく、事故発生時のマニュアルも作成し職員全員が対応できるようにしている。緊急連絡網も作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年2回実施。実際に利用者もグループホームの外に誘導し、緊張感を持ちながらの訓練ができています。	年2回の火災訓練は、火災警報機器業者が機器点検を行った後、入居者も参加して実施されている。訓練後の振り返りは、出来るだけ具体的に記載し、次回の訓練に活かせるように取り組むことが望まれる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する会話の基本はもちろん敬語であり、個人の人格を尊重した対応を行っている。利用者の言葉を否定しないよう、尊厳を傷つけないようなケアを行っている。	管理者は、言葉遣いが人格尊重に一番大切と考え、呼び方の配慮、敬語の使用等について職員指導を行っている。排泄支援時の声の大きさや、表現、また、個人情報に関して、プライバシー確保を意識したケアとなるよう指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日常生活を観察しながら、また利用者からの言動により、できる限り利用者自身から希望を表していただくよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課は大体決まっているが、利用者のその日の状態に合わせてながら生活を送っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人が衣類を選択できる場合には、利用者自身に衣類を選んでいただいている。また外出時には外出に合った衣類を選ぶことにより気分転換を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嚥下状態を確認し、食事形態を決定し安全な食事提供を行っている。誕生日や行事等実施時には特別な食事を提供している。食器拭き、お盆拭きを役割の一つとして、残存機能の維持に努めている。	グループ内の畑で栽培された野菜を使った季節感豊かな食事が提供されている。調理担当職員が、入居者の希望を聞きながら、旬の食材を取り入れた料理は、好評で、「おかわり」の声や、100歳の入居者も、ほぼ完食するなど、美味しい食事で支援しているようすが窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理担当職員が、様々な食材を使用して、利用者の好みに応じた食事を提供している。食事摂取量をチェックし、摂取量が少ない時には栄養補助食品も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員口腔ケアを行っている。義歯を使用される利用者は毎夕義歯洗浄剤で清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位可能な利用者は、定期的にトイレ誘導をしている。排泄の意思が見られない利用者であっても、トイレ誘導を行い、排泄を促している。	日中は車椅子利用者も含めて、時間を見ながら、あるいは本人の訴えにより全員トイレへ誘導し、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、排便状況を把握している。排便コントロールが上手くいかないときには、医師に相談、助言をいただき、下剤の使用や水分・お茶の促し、身体を動かすよう働きかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則週2回の入浴実施。体調不良等で入浴できない際には清拭、衣類交換で対応している。職員ではなく、利用者のペースで入浴できるよう配慮している。	週2回の入浴は、朝食後、全員が順番に入浴することとなっている。入浴に気が進まない時は、時間を変えたり、担当者を変えたりしながら入浴支援を行っている。入浴支援が利用者のペースに配慮されているか、見直すことも良いと思われる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は食堂、ホールで過ごされているが、利用者の年齢、体力、体調を考慮しながら、休息をしていただいている。体力のある利用者は昼間の活動を促し、夜間眠っていただくという形をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を配薬するときには、名前と顔を見て確認しながら服薬介助を行っている。薬箋にも目を通し、効能や副作用も頭に入れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中は軽体操を実施しながら、頭の体操として簡単な計算、ことわざ、都道府県名のクイズや歌を歌ったりして、刺激のある生活が送れるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、受診を通しての外出支援を行っている。家族付き添いで受診に行かれる際には良い気分転換にもなっている。また家族の協力もあり、温泉にも出かけられていた。	初詣・お花見・紅葉狩等、近くの神社や公園に少人数で出かけることはあるが、日常的な外出は少ないように見られた。豊かな自然の様子は、居室の窓やリビングからいつでも観賞できる恵まれた環境にはあるが、入居者の要望にそって戸外に出かけられるような支援が増えると更に良いと思われた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は施設で行っており、利用者個人では管理されていない。生活必需品等あれば、買い物支援、代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はお正月、誕生日に家族からかかってきて、本人と話され喜ばれている。月一度の家族便り、年賀状の送付をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	5s(整理・整頓・清潔・清掃・躰)を日課とし、生活しやすい環境整備を行っている。周囲も自然に囲まれており、季節を感じることができる環境である。壁には利用者の作品や写真を展示して、生活感のある環境作りを行っている。	地域の木材を豊富に使用して建てられたホームのリビングは、大きな梁や柱があり、高い天井からの採光も良く、木の温もりが感じられる心地よい空間となっている。脱衣場はエアコンが設置され冬場の寒さに備えている。屋内は、清掃が行き届き、季節の花も飾られ、温かく穏やかな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや食堂、居室で一人一人が自分に合った空間で過ごすことができる。また座席もほぼ決まってい、気の合う利用者で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や家具を持ち込み、落ち着いた雰囲気与生活できるようにしている。また家族の写真を飾って、思い出を共有できるように配慮している。	各居室は、衣類用整理ダンスが置かれている程度で家具等の私物の持ち込みは少なく、シンプルな雰囲気の部屋が多く見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札、手すりの設置、トイレの案内掲示等、利用者が建物内部の状況を把握することができるようにしている。		